

# 令和6年能登半島地震被災地を支援

## 宗派 支援センター

## 珠洲市・真浄寺で炊き出し

## 仮設住宅にカレー500食届ける

能登半島地震支援センター（金沢市・金沢別院内）は10月14日、石川県珠洲市の真浄寺（野崎至住職）で炊き出しを行った。本堂の柱が沈下するなどの被害を受けた同寺近隣の仮設住宅で暮らす人たちにカレー500食余りを提供した。



出があった。炊き出しには、センターのスタッフ、石川教区教務所の職員、ボランティアなど20人が参加。責任役員の竹田秀雄さんをはじめ門徒10人も協力し、厨房で全国からセンターに送られてきた米60kgを炊き上げてカレーを盛り付けた（写真下）。500食分のルーは、賛同した金沢カレーのチェーン店「チャンピオンカレー」から無償で提供された。

真浄寺のある宝立地区では震度5強の揺れで大きな被害を受け、多くの住民が宝立町第1団地（宝立小中学校グラウンド）、同第2団地（見付公園）などの仮設住宅に入居している。

仮設住宅への訪問活動に向けて、9月に同センター職員が真浄寺を訪ねて話を聞く中で、各地で炊き出しを行っていることを紹介したところ、門徒たちから真浄寺で炊き出しをしてほしいとの申し

で行うサロン活動の案内チラシを手渡した。サロン活動は田鶴浜コミュニティセンターで実施。10人ほどが参加し、食事やクイズ、ビンゴ大会を通じて交流した（写真）。

## 龍谷大学 高大連携でサロン活動

宗門校・龍谷大学（京都市伏見区）の政策学部・石原綾河ゼミは10月12日、京都市立開建た開建高校から「合同高校（京都市南区）」と合同で、能登半島地震の被災地・石川県七尾市田鶴浜地区でサロン活動を行った。

石原ゼミは防災翌月から田鶴浜地区を訪問し、避難所の手伝いのほか、仮設住宅に住む高齢者を訪問して



で防災活動を行えないかと提案し実現した。龍谷大学と開建高校は昨年度、連携協定を結んでいる。開建高校の防災活動グループ「防災ボランティアリーダー」の生徒19人のほか、京都市立西京高校（京都市中京区）の生徒5人も加わり、ゼミ生4人と合わせて28人が早朝に大型バスで出発。午前10時に田鶴浜地区に到着すると、仮設住宅の舟尾町第1団地と垣吉町第1団地を訪問した。

まず、3人ずつのグループに分かれて一軒一軒訪ねていき、入居者の健康状態や生活状況、困りごとなどの調査を行い、当日午後に

真浄寺を訪れた人たちは本堂で食べてもらい、第1、第2団地には調理したカレーを運んで入居者に配布した（同上）。また、長野教区から支援物資として届けられたリングを一緒に配った。

仮設住宅でカレーを住民に配った竹田さんは「到着したらもう多くの人が並んで待っていた。みなさんが『ありがたい。助かります』と感謝しながらカレーとリングを手に取っていた。今回の炊き出しだけでなく、震災直後から支援センターには真浄寺に支援物資を届けてもらうなど大変お世話になって

支援センターは「今後は仮設住宅の訪問活動を行うなど、息の長い支援を続けていきたい」と語っている。

大切なことを学ばせてもらった」と話した。石原ゼミの伊藤舞香さん（3年）は「高校生がいると現地の方から声をかけられることが多く、会話のきっかけを作りやすかった。何りを作れば孤立を防げると話した。

石原准教授は「ボラの活動の良さを語る一方で、今後の課題について『交通手段がなく参加が難しいという声や、心の整理がまだあることを知り、防災活動の重要性を考える専門教育を体験できた。また大学生も、高校生と共に活動することで培ったノウハウや経験の伝え方を学ぶ貴重な機会になった」と高大連携の意義を語った。

中山綾実さん（同）は「田鶴浜以外から入居している方もいるので、孤立しないための

